

SSH 生徒研究発表会 ~わかりやすいプレゼンを目ざして~

2月10日(土)にSSH生徒研究発表会、松山高科学展覧会(松高賞)などが本校を会場に行われました。午前中のSSH生徒研究発表会では、視聴覚室でSS科学探究Ⅱ、SS理数数学Ⅱと理数系部活動の代表による計10本の口頭研究発表がありました。わかりやすい発表を目標にし、会場からもたくさんの質問が出されました。



午後は、1年生理数科を含めて全チームが1階の教室でポスター発表をしました。また、これと平行して小・



中学生の科学展(松高賞)が行われ、小中学生の研究と本校生の交流が深まりました。

他にも、他校先生方等を対象としたSSH成果報告会や、第2回運営指導委員会も開催され、松高のSSHについて評価や意見が交わされました。

SS講義家庭 (生命倫理)

2月13日(火)⑥⑦限目に理数科2年生を対象に北里大学一般教養学部うざわの鶴澤和彦先生による生命倫理の講義を実施しました。講義では生命の尊さや神聖さ SOL (sanctity of life) と生活の質 QOL (quality of life) についてや、新型出生前診断の試験的導入による生命の選択問題などが話されました。また、それらの問題の背景にある不妊治療や難病治療などについての講義もされたうえで、救世主兄弟の問題についてグループディスカッションをしました。鶴澤先生は最後に生命倫理について「答えは一つではない。私たちが生きている社会・歴史に照らし合わせて、自分の考えが社会的歴史的にどうなのか考えていかなければならない。いろいろな立場の人と話し合い、広い視野を持つ必要がある」とまとめられました。



*「救世主兄弟」とは、先に生まれた病気の子供を助けるため、体外受精によって作られた複数の受精卵の中から、遺伝子検査によって免疫の型が一致するものを選別し、拒絶反応を起こさないドナーになるべく意図的に作られた子供のことで

SS講義英語 「世界へのトビラ」

2月14日(水)⑤限目に2年生理数科の生徒を対象に、鈴木マルタエレーナ氏(南米のコロンビア出身)を講師にお招きして、SS講義「世界へのトビラ」というタイトルで講義をしていただきました。



生徒はコロンビアで使用されているスペイン語の挨拶や食文化、民族、宗教、学校制度等を学び、日本との違いに驚く場面もありました。この講義を通して、コロンビアのことをより深く知りたいという感想も出されました。普段ほとんど接することのない国の方との交流ということもあり、意欲的に講義に参加していました。